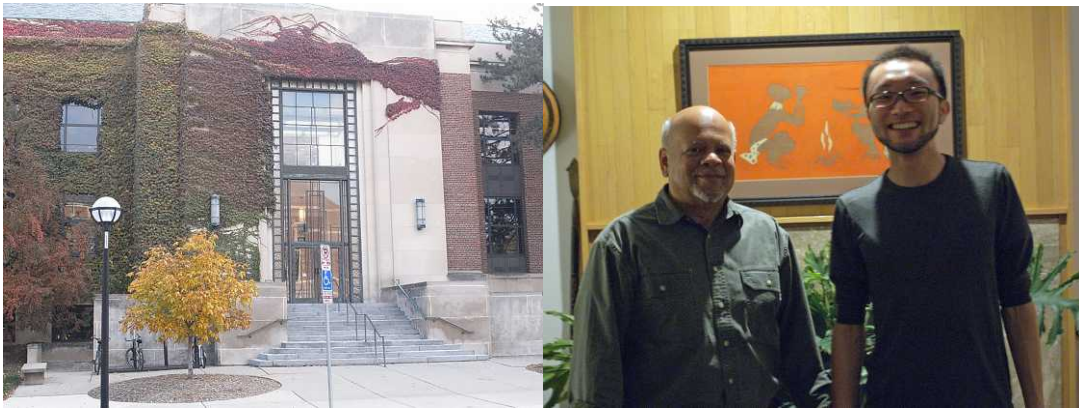


ミシガン大学研修記

予防歯科学分野
岩崎正則

私は2008年11月1日から6ヶ月の予定で米国ミシガン州のミシガン大学(University of Michigan)に留学し、Dr. George W. Taylorの下で勉強させて頂いています。Dr. Taylorは1974年にHarvard School of Dental MedicineにてD.M.D. degreeを取得、1982年にM.P.H. また1994年にDr.P.H. をUniversity of Michiganにて取得、現在University of Michigan, School of Dentistry および School of Public Health のAssociate Professorとして仕事をされています。Dr. Taylorの主な研究のテーマは歯周病と糖尿病に関する疫学調査、およびsecondary data analysis of complex survey dataを用いた歯周病と血糖コントロールとの双方向の関連を見ることです。



ミシガン大学

Dr. George W. Taylor とともに

次に簡単に大学の紹介をさせて頂きます。ミシガン大学はミシガン州 Ann Arbor に位置しております。1817年に創立された、全米でも最も歴史のある州公立大学です。20を超える学部に3万人以上の学生が勉強しています。キャンパスは主に、ノース・キャンパス、セントラル・キャンパス、サウス・キャンパスの3つに分かれており、私が勉強している歯学部はセントラル・キャンパスを本拠としています。



研究室にて筆者

私のこちらでの目的は大きく分けて2つです。

1つ目は全身と口腔との関連について、特に糖尿病およびその合併症と歯周病との関連、また慢性腎臓病（CKD）と歯周病との関連について調査することです。その調査の一環として NCHS: National Center for Health Statistics（米国立衛生統計センター）と CDC: Centers for Disease Control and Prevention（米疾病対策センター）が、米国民の健康状態と栄養状態に関する情報を収集するために実施する調査である National Health and Nutrition Examination Survey: NHANES（国民健康栄養調査）のデータを用いた調査があり、今現在私は NHANESⅢ データを用い、糖尿病性腎症と歯周病との関連を Cross-sectional analysis としてまとめています。

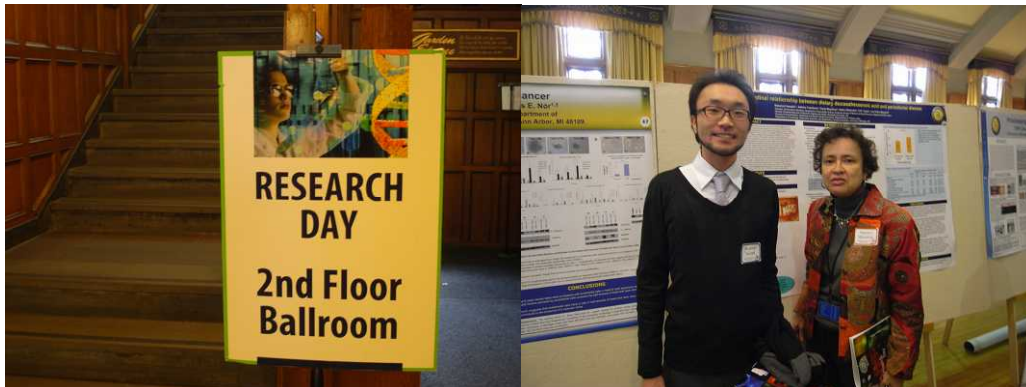
2つ目はデータの処理と解析に用いる統計学についての知識を深めることです。Data handling から始まり、Cross-sectional analysis および Longitudinal analysis におけるテクニック、また一般線形モデルそして一般化線形モデルまでを順を追って学習してきました。統計に使用するソフト（SAS および SUDAAN）に関する勉強も並行して行っております。

以上2つの内容のほかにも、大学が開講している Non-native speaker を対象とする Academic English Presentation に関する Course を受講し、効果的なプレゼンテーションの方法を学んでいます。また、2008年12月3日には Michigan Dental Association が主催する Oral/Systemic Health Conference に出席してきました。内容は主に歯周病と全身（心臓病、糖尿病、早産）であり、数多くの講師の口演を聞くことで、全身と口腔に関する知識を深めることができました。



セミナーにて

2009年2月10日にはミシガン大学で行われた Research Day にポスタープレゼンターとして出席しました。『Longitudinal relationship between dietary docosahexaenoic acid and periodontal disease』の題目でポスタープレゼンテーションを行い、他の出席者と意見を交わすことで、今後の研究における課題及び目標を見つけることが出来ました。



Research Dayにて

以上が2008年11月から今までの留学内容の簡単な報告となります。ミシガン大学の環境は素晴らしく、自分のスキルを向上させるための機会が至る所にあります。そのチャンスを積極的に捉えていくことで学ぶ喜びを実感できています。さらに、御指導いただいている Dr. Taylor は非常に素晴らしい人物で、彼の下で勉強できることに幸せを感じています。留学期間も残り少なくなってきましたが、一日一日を無駄にせず、自分の能力を最大限に伸ばし、日本に帰国後もその経験を生かして活躍できればと思っています。